

式辞 全文)

入学を許可された四十四名の皆さん、入学おめでとうございます。
また、これまでお子様を温かく見守り、支援してこられた保護者の
方々やご家族の皆様、学校を代表しまして、心からお祝い申し上げ
ます。

本日第五十三回目となる入学式に、衆議院議員の葉梨康弘様、
県会議員の萩原勇様をはじめ多数のご来賓方々、並びに愛国学園理
事長の三浦亮一様をはじめ、学園本部から多くの先生方のご臨席を
賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、入学生の皆さんは、愛国学園の桜の木々の間を登校する時の
気分はいかがですか。樹齢数十年を超える桜の花の美しさに圧倒され
たのではないでしょうか。愛国学園の桜はとても有名です。その理由の
一つは桜の木の姿にあると思います。花の美しさとともにその枝振りの
美しさがよりいっそう人々を惹きつけているようです。

私は、校庭の桜が咲き始めたとき、リーフレットを作りました。本校
の女子校としての歴史や二百六十二本あると言われる桜を紹介
するリーフレットを、桜を見に来られた方々に手渡ししながら、いろ
んな話をする機会が持てました。

毎年この桜を楽しみに来ている人、知り合いから素晴らしい桜の木
があると聞いてはじめて訪れた人、毎日のように散歩の途中で訪れた
人など、そういつ皆さんが口をそろえていうことは、本校の桜ほど美し
い桜は他にはあまり見られない、とても貴重な桜だということです。

この地にはかつて馴柴中学校があり、その跡地を拡張して本校は昭和四十年に開校しました。古くからあつた桜と創立者の織田小三郎・淑子両先生による創立記念植樹と愛国学園精神に基づいて行われた卒業時における記念植樹により、学園全体が今日のように美しい桜の木々で囲まれることになったのです。本校にはこのように歴史と伝統があります。私が話した人は皆、この素晴らしい教育環境の中で学生生活を送れることを羨ましいと異口同音に言っていました。私も全く同感です。静かで落ちついた環境は別天地とも言える理想の環境であると思います。そういう環境の中で今日から学びはじめの皆さんはとても恵まれた環境にいることを忘れないで欲しいと思います。

今から約三十年前は本学園には千五百名を越える生徒が学んでいました。少子化により、二十年ほど前から、在校生の減少が続くようになりました。しかし、建学精神は少しも薄れること無く、面々と続いています。親切正直」の校訓のもと、豊かな知識と技術を身につけ、美しい情操と強い奉仕の心を持ち、賢く、淑やかで、優しさや思いやりの心を大切にする女性の育成に努める。」という教育方針を堅持しています。

本学園の校章は撫子を象徴したものになっています。日本人女性の理想像としてよく引用される大和撫子」です。これからの学園生活で重要になるキーワードがあります。それは3つの「S」。つまり、校訓である親切」の「S」と正直」の「S」、そして、撫子を表す淑やか」の「S」です。この3つの「S」をどんなときでも意識して行動できる女性であつて

欲しいと強く願っています。私たち教職員は、様々な教育活動の場面で礼節を大切にしながら、心を磨いていく教育の実践を進めていきます。

高校入学後の3年間は中学校以上に時の流れを早く感じるものです。時に流されないためには、「なりたい自分を見つけること」が大切です。つまり、三年後の卒業時の自分の姿を想像することです。こういう自分になりたいということを考え続けてください。可能性は考えるたびに広がっていきます。その考えるきっかけを作るため、学校はいろいろな場面を皆さんに提供していきます。本校が皆さんにとって「なりたい自分になれる力を身につけられる学校」でありたいと思っています。

本学園の特色でもある、1年次の臨海宿泊学習、2年次の高原宿泊学習、そして、東北地方と関西北陸地方へ出かける2回の修学旅行。また、3年次の希望者によるアメリカ海外研修などの活動を通して、自分の興味関心を高めたり、自分を知らるきっかけを持つこともできます。

本校では、これまで以上に、就業体験や職場訪問などのキャリア教育を充実させ、自分の適性や特性を知り、自分の伸びしろを最大限に広げて自分の能力を最大限に生かした進路選択ができるようにしていきます。また、地域社会との交流も積極的に進め、自信を持って生徒が意欲的に挑戦できる場を増やしていきたいと思っています。

私の名刺にはひとつ特徴があります。名前の他に、キーワードが印刷されています。そのキーワードは「いつでも誰でも主人公」です。一人一人の生徒はかけがえのない存在です。つまり、誰でもオンリーワンなのです。皆さんは、いつでも、主人公なのです。私が自分の名刺にそう書

く理由は、皆さん一人一人が心からそう思ってもらえるような学校を先生方と力を合わせて作つていこうと決意したからです。

これからの学園生活の中では、いろいろなことを経験することでしょう。うれしいことばかりではなく、苦しいこと悲しいこと辛いこともあると思います。けれども、どんなときでも皆さんの周りには、私たち教職員がいます。そして、助けてくれる仲間がいます。守つてくれる家族がいます。決して、皆さんは独りではありません。そのことをどうか忘れないでください。

最後に、皆さんが、この学園で学び、この学園を卒業することを心から誇りに思ってもらえるよう、そして、三年後の卒業式に、一人でも多くの卒業生から、将来自分に女の子ができたらぜひ愛国学園に入りたい。」と言ってもらえるよう、私たち教職員は最大限の努力をしていくことをここに約束して、私の式辞とします。

平成二十九年四月十一日

愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校長 倉持正男